

高岡市埋蔵文化財調査概報第 72 冊

市内遺跡調査概報 XX I

—— 平成 22 年度、下佐野遺跡（豊原地区）の調査他 ——

2012 年 3 月

高岡市教育委員会

高岡市埋蔵文化財調査概報第 72 冊

市内遺跡調査概報 XX I

—— 平成 22 年度、下佐野遺跡（豊原地区）の調査他 ——

2012 年 3 月

高岡市教育委員会

序

高岡市においては、現在 341 箇所の遺跡が周知されております。丘陵や台地部においては縄文集落をはじめ、古墳群や城郭跡が多く所在し、平野部においても農耕文化以降の集落遺跡や官衙的な遺跡が多数分布しています。

これら多くの遺跡により醸成された文化は、ご先祖から脈々と受け継がれてきたものであり、現在の高岡市の風土や文化に通じております。

本市におきましては、長年にわたりこれらの保護を実施して参りました。このたび報告いたしますのは、平成 22 年度に実施した個人住宅の建築などの開発行為にともなう発掘調査の成果です。

このうち、下佐野遺跡では、木簡をはじめとする多量の遺物を検出し、古代社会の解明にまた一つ貴重な資料を得ることとなりました。

本書が郷土における歴史探求や学術研究にご活用いただければ幸いです。

末尾になりましたが、今回の発掘調査の実施にあたり、ご協力いただきました関係各位、地元の皆様に、厚くお礼申し上げます。

平成 24 年 3 月

高岡市教育委員会
教育長 氷見 哲正

例 言

- 1 本書は、富山県高岡市において高岡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。
- 2 当調査は、個人住宅の建設等の開発行為にともない実施したものである。
- 3 現地調査は平成 22 年度に国庫補助金の交付を受けて実施し、これにかかる報告書作成は平成 23 年度国庫補助金の交付を受け、高岡市教育委員会が実施した。
- 4 本書で報告する遺跡並びに調査地区は、13 遺跡 22 箇所である。
- 5 調査形態は、本発掘調査を実施した下佐野遺跡（豊原地区）以外はすべて試掘調査である。
- 6 調査関係者は以下のとおりである（高岡市教育委員会文化財課）。

課長 大巻 宏治 (22 年度)
高田 克宏 (23 年度)

総括専門員 高田 克宏 (22 年度)

主幹 中野 由美子 (22~23 年度)

主査 根津 明義 (22~23 年度)

事務員 田上 和彦 (23 年度)

嘱託職員 田上 和彦 (22 年度)
道振 弘明 (22 年度)
阿原 智子 (23 年度)
江口 雅子 (23 年度)
千田 友子 (23 年度)
宮野 美重子 (23 年度)

- 7 屋外調査は 22 年度に根津・田上・道振が担当し、報告書の編集は根津・阿原・江口・千田・宮野が担当した。
- 8 発掘調査及び遺物整理の従事者は次の通りである。（五十音順）

【現地調査】

石田 敏行 黒田 貴之 小板 達郎 清水 不二雄 高嶋 輝雄 中山 賢富 畠山 行男
馬道 弘一 山崎 一男 山田 誠晃

【報告書編集作業】

大澤 拓馬 北島 裕子 北村 史織 繁瀬 文佳 竹部 光希 東海林 心 瀬原 史織
宮野 美重子

- 9 発掘調査にかかる遺物等の資料は、すべて高岡市教育委員会で一括保管している。
- 10 木簡及び墨書き器の釈文解説にあたっては、富山大学人文学部の鈴木景二教授のほか、独立行政法人奈良文化財研究所都城発掘調査部史料研究室からご教示を得た。また、赤外線写真撮影においては同研究所の中村一郎・栗山雅夫両氏が撮影を実施した。

凡 例

- 1 遺構等の記号は以下のとおりである。
SD : 溝状遺構 SK : 土坑 SP : ピット SX : 穴状遺構・その他
- 2 遺物番号については調査地ごとに下記のとおり整理した。
須恵器 : 101~ 土師器・内面黒色土器 : 201~ 木製品・土製品 : 301~

高岡市埋蔵文化財調査概報第72冊 市内遺跡調査概報XXI

目 次

第1章 下佐野遺跡（豊原地区）

遺跡概観	-----	1
調査の概要	-----	2
主要検出遺構	-----	2
出土遺物	-----	4
文字資料	-----	6
総括	-----	7

第2章 越中国府関連遺跡（白山林道拡幅地区）

遺跡概観	-----	19
調査の概要	-----	19
検出遺構	-----	20
出土遺物	-----	20
総括	-----	20

第3章 その他の遺跡調査 ----- 24

1 中保B遺跡（ロクショウ地区）	2 瑞穂町遺跡（木原地区）
3 越中国府関連遺跡（角納地区）	4 井口本江遺跡（松井地区）
5 越中国府関連遺跡（古枝地区）	6 石塚遺跡（戸出高岡線地区）
7 蓮花寺遺跡（杉田地区）	8 上二上遺跡（門井地区）
9 越中国府関連遺跡（高橋地区）	10 東木津遺跡（津沢地区）
11 越中国府関連遺跡（気多神社地区）	12 江尻遺跡（圃場整備地区2）
13 瑞龍寺遺跡（高岡地所地区）	14 瑞龍寺遺跡（橘地区）
15 瑞龍寺遺跡（村田地区）	16 麻生谷遺跡（橘地区）
17 下黒田遺跡（新幹線周辺地区）	18 下黒田遺跡（畠地区）
19 東木津遺跡（市村地区）	20 井口本江遺跡（再開発地区）

挿図目次

第1図	下佐野遺跡位置図	-----	1
第2図	下佐野遺跡（豊原地区）調査区位置図	-----	2
第3図	下佐野遺跡（豊原地区）調査区全図	-----	3
第4図	下佐野遺跡（豊原地区）遺物実測図 須恵器蓋	-----	9
第5図	下佐野遺跡（豊原地区）遺物実測図 須恵器杯類	-----	10
第6図	下佐野遺跡（豊原地区）遺物実測図 須恵器杯類	-----	11

第 7 図	下佐野遺跡（豊原地区）遺物実測図	須恵器杯類	-----	12
第 8 図	下佐野遺跡（豊原地区）遺物実測図	土師器杯・椀	-----	13
第 9 図	下佐野遺跡（豊原地区）遺物実測図	土師器杯・椀	-----	14
第 10 図	下佐野遺跡（豊原地区）遺物実測図	土師器杯・椀	-----	15
第 11 図	下佐野遺跡（豊原地区）遺物実測図	土師器杯類・甕	-----	16
第 12 図	下佐野遺跡（豊原地区）遺物実測図	墨書き土器・内面黒色土器	-----	17
第 13 図	下佐野遺跡（豊原地区）遺物実測図	須恵器大甕・壺・瓦塔（水煙）・土錐	-----	18
第 14 図	越中国府関連遺跡位置図	-----	-----	19
第 15 図	越中国府関連遺跡（白山林道拡幅地区）調査区全体図	-----	-----	21
第 16 図	越中国府関連遺跡（白山林道拡幅地区）出土遺物実測図	-----	-----	23

図版目次

図版01 下佐野遺跡（豊原地区）

- 1 調査区全景（遺構確認時・南方より）
- 2 調査区全景（完掘時・南方より）

図版02 下佐野遺跡（豊原地区）

- 1 砂状遺構（北方より）
- 2 1号木簡検出状況

図版03 下佐野遺跡（豊原地区）1号木簡赤外線写真

図版04 下佐野遺跡（豊原地区）2号木簡赤外線写真

図版05 下佐野遺跡（豊原地区）墨書き赤外線写真

図版06 下佐野遺跡（豊原地区）

- 1 人形（赤外線写真）
- 2 横櫛
- 3 瓦塔（水煙）

図版07 越中国府関連遺跡（白山林道拡幅地区）

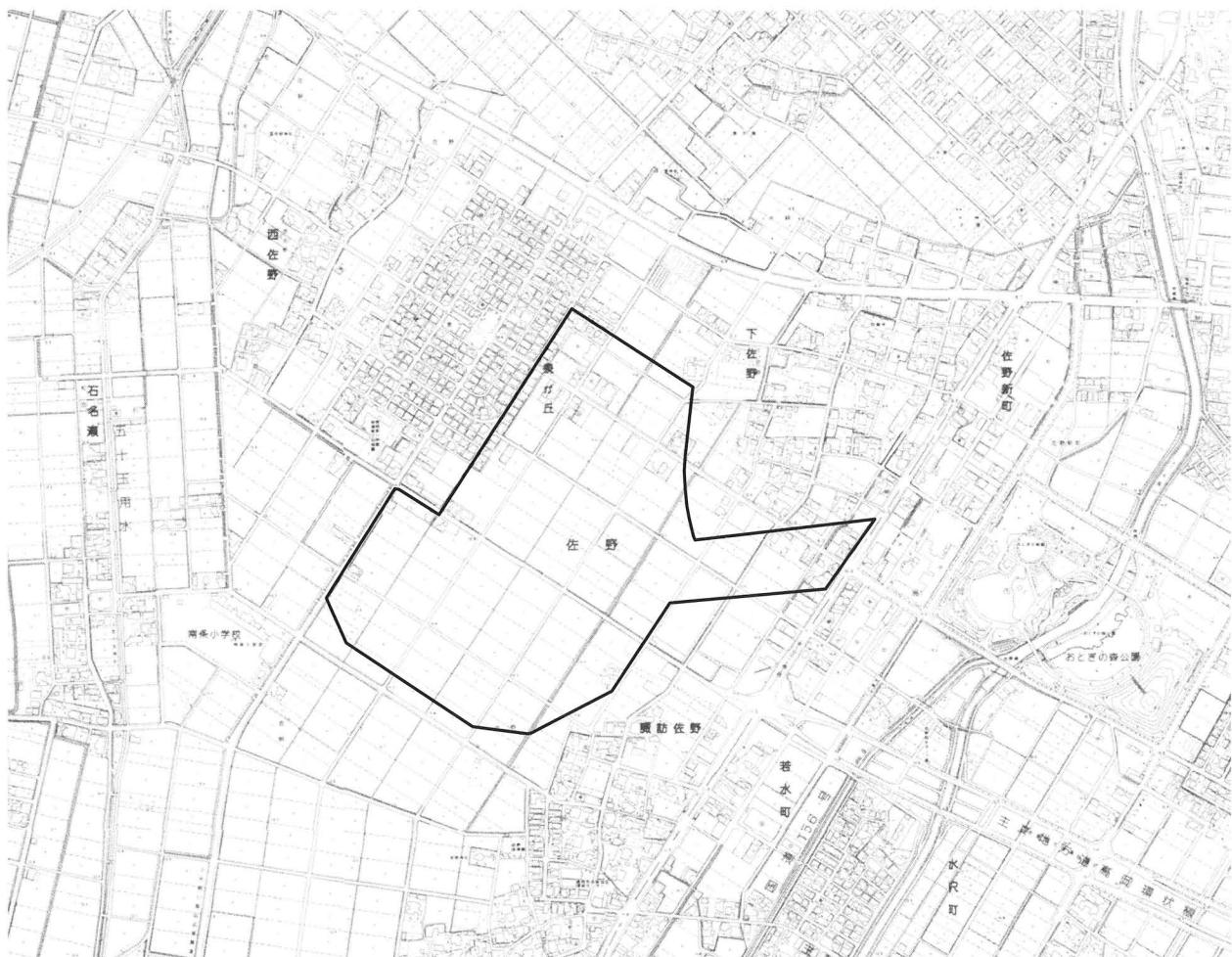
- 1 第1トレンチ全景（東方より）
- 2 第1トレンチ遺物出土状況（南方より）

第1章 下佐野遺跡（豊原地区）

遺跡概観

下佐野遺跡は高岡市街地の南西に位置する。周辺は庄川水系により形成された扇状地と「佐野台地」からなる。同台地上には複数の遺跡が密集し遺跡群を形成する。いまのところ縄文時代後期を最古の歴史的様相とするが、弥生時代中期後半の様相が根を下ろした以後は継続的に各時代の様相がこの地で展開され今日に至る。

研究史上において下佐野遺跡は、弥生時代後期の遺跡として以前から注目をされてきたが、近年では複数の時代が所在する複合遺跡であると認識が改められている。ことに古代においては官衙的な様相が所在したことが近年判明しており、周辺地域をふくめた総合的な視角から検討をするべき状況に変化しつつある。



第1図 下佐野遺跡位置図 ($S=1/20,000$)

調査の概要

今回の調査区はすでに平成21年に試掘調査を実施した地点であるが、原因者の意向により同22年にあらためて開発行為が具体化され、本調査を実施する運びとなったものである。屋外発掘調査は平成22年5月12日から同月16日まで行い、開発対象地にのみ本調査を実施した。

調査は国庫補助事業として高岡市直営で実施した。まず重機による表土の掘削に始まり、続いて作業員を動員しての掘削作業、遺構検出・同掘削・遺物取り上げといった一連の作業を行った。またこれと並行し各種写真撮影のほか、遺構断面図や遺構平面図の作成等、図化作業を実施した。

基本層序については、現状の表層となる黒褐色土層（旧耕作土）が15～20cmほど堆積していたが、とくに遺物包含層は検出されずに表層直下から地山が検出され、これがそのまま遺構確認面となる。検出遺構及び出土遺物は後述のとおりである。

主要検出遺構

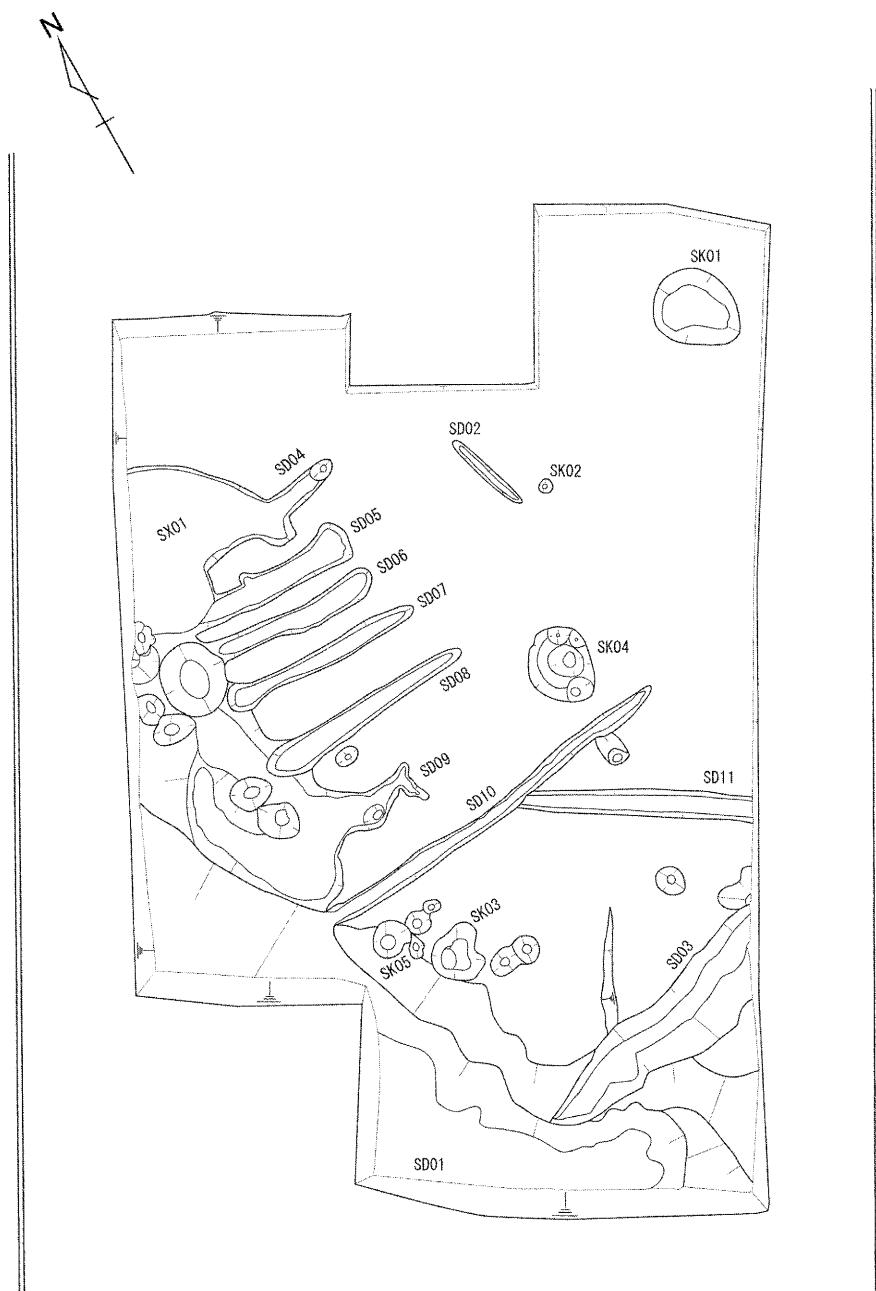
本調査区からは、比較的多量の土器類を検出した溝状遺構SD01をはじめ、これに隣接する畝状遺構、そして土坑や溝状遺構が検出されている。

概して調査区内においては西南方向に遺構があつまる傾向にある。各遺構の消長関係は不明であるが、各遺構のあり方や性格などから同時期共存のものが多数を占めるものと思われる。

当該地区の存続期間は、出土遺物のうえからは8世紀後半から10世紀前半までの古代を中心とする。出土遺物の殆どは溝状遺構SD01から出土したものであり、他の遺構については出土遺物が無いか、もしくは土器片数点が出土した程度にとどまる。



第2図 下佐野遺跡（豊原地区）調査区位置図



第3図 下佐野遺跡（豊原地区）調査区全図 (S=1/100)

溝状遺構 SD01

調査区南部で検出された北西から南東方向にはしる溝状遺構または川跡であり、当調査区の中では最大の遺構である。両端は調査区外へと達するが確認される範囲では全長 9.0m 以上を呈する。周辺の遺構との境界が不鮮明な部分もあるが、調査区南部で最大幅 2.9m 以上をはかる。

溝状遺構 S D03 などと切り合うが新旧関係は不明である。ただし、これら及びこれらと並行する溝状遺構（畝状遺構）は概ね本遺構と直角の方位をとる。

本遺構の覆土は黒褐色土層を呈し 3 層に細分できるが、出土遺物のうえでは大きな時期差は窺えない。肩部においては小規模土坑状の落ち込みが伴う傾向にあるが、その覆土は上記と同様のものであり、一連の遺構となる可能性がある。

当調査区からの出土遺物のほとんどはこの遺構覆土からの出土である。年代的には 8 世紀後半代から 10 世紀代のものが見受けられるが、土器類のほか、最下層からは木簡等の木製品も出土している。

溝状遺構 SD02

調査区中央部の北側で検出された溝状遺構である。上記の溝状遺構 S D01 と同様に北東から南西方向へとはしる。現状では全長 1.1m、幅約 0.16m、深さ約 0.05m をはかる。

基本的に当調査区は後世の削平を受けているものとみられ、当該遺構も往時はより大きな規格を呈していた可能性がある。また、その場合は後述の溝状遺構 S D10 らとともに畝状遺構を区画する機能を有していた可能性も残る。出土遺物はない。

溝状遺構 SD03

調査区南部で検出された南西から北東方向へはしる溝状遺構であり、周辺に所在する畝状遺構などと概ね同方位をとる。

北東端は調査区外へと達し南西端は上述の溝状遺構 S D01 と接するが、双方の新旧関係は不明である。確認できる範囲では全長 3.9m 以上、最大幅 1.0m をはかる。出土遺物はない。

溝状遺構 SD11

調査区東部で検出された東西方向にはしる溝状遺構である。周辺の溝状遺構や畝状遺構とは平行関係になく直行もしない。東端は調査区外へと達する。西端は溝状遺構 S D10 と接するが新旧関係は不明である。確認できる範囲では全長 3.0m 以上、最大幅 0.25m をはかる。出土遺物はない。

畝状遺構 SD04~09

調査区西部で検出された溝状遺構群であり概ね同方位を呈する。その平面形状から畝状遺構と考えられるものである。また、溝状遺構 S D02 や 10 により区画される可能性も残る。年代不明の土師器片が計数点出土している。

土坑 SK01

調査区北東部で検出された不整楕円形を呈する土坑である。長軸 1.25m、短軸 0.95m、最大深 0.08m をはかる。覆土は明灰褐色土層を呈し、溝状遺構 S D01 等の他の遺構とは異なる。出土遺物はなかつた。

出土遺物

本調査区からは概ね 8 世紀後半代から 10 世紀前半までの古代の遺物が出土している。数量的には土師器と須恵器だけで全体の 10 割に近くにのぼる。ただし、消長関係としては須恵器が 9 世紀前半第まで圧倒数を占めるものの、それ以降は土師器がこれに代わり、数量的にもこの時期以降の土師器が本調査区からの全出土遺物の中でも圧倒数を占める。

出土遺物全体を器種別に分類すると、須恵器・土師器を問わず杯・椀等の食膳具の占める割合が圧倒多数を占め、煮沸具や貯蔵具は希少な存在となり、概して官衙的な遺跡と類似する傾向にある。また特筆すべきものは、後述する田祖関連とみられる木簡のほか、算木、墨書土器、瓦塔などがある。

なお、これら出土遺物の殆どは前述の溝状遺構 SD01 からの出土である。

須恵器

当地区からは 8 世紀後半代から 9 世紀前半代までの須恵器が出土しており、当該期における出土遺物の殆どを占める。ただし、上述のように 9 世紀中頃を境に須恵器から土師器へと使用の変更がなされたものとみられる。

器種としては、蓋をはじめ、杯A、杯B、大甕、壺などがみられるが、土師器と同様に食膳具の占める割合が多い。

土師器

当地区の出土遺物の中で最多数をかぞえる。年代的には 9 世紀後半代から 10 世紀前半代のものが殆どであり、それ以前のものはその可能性を有する破片が数点出土した程度である。ちなみに、9 世紀前半まで多数を占めた須恵器はこの時期に著しく数量が減少する。

器種としては、杯や椀、皿などといった食膳具が圧倒数を占め、煮沸類は希少である。この傾向は官衙的な様相にみられる特色とされ、後述する木簡や墨書土器などの内容等を鑑みても、周辺にはそうした様相や施設の所在した可能性が窺われる。

瓦塔（水煙）

当地区からは瓦塔とみられる土製品が 2 点出土している。うち 1 点は最大長 6.0 cm、最大幅 3.3 cm、厚さ 1.0 cm を呈する。他方は最大長 5.5 cm、最大幅 4.3 cm、厚さ 1.2 cm である。

全体的には板状を呈し平面形は不正形をなす。片側は弧を描くように整形されているが全周するとしても不整円形にしかなりえない。焼成は土師質を呈しているが色調は茶褐色を呈する。また、接合こそしないものの双方は形状や製作技法、その他色調等が酷似するため同一個体または同一の用途をなしたとみられる。

全体像は不明ながら、その形状からは瓦塔の水煙となる可能性があるかと思われる。

内面黒色土器・赤彩土器

当地区からは土師器をベースとする内面黒色土器と赤彩土器が出土している。確認される範囲では前者が 7 個体と破片数十点、後者が破片数十点である。器種は椀や杯が主体である。一部不明なものもあるが 9 世紀後半代以降のものが主体を占める。

人形

溝状遺構 SD01 の最下層から検出された人形である。頭部から胸部までが残存しており、確認できる範囲では全長 50 mm、最大幅（頭部）19 mm、厚さ 3 mm を呈する。

鳥帽子のほか、眉毛、目、髭、そして衣服を表現した可能性のある墨痕がみえる。また僅かながら肩部の形成がみられる。

横櫛

溝状遺構 SD01 の最下層から検出された横櫛である。両側や歯の多くを欠損し、すでに 3 分割の状態にあるが、現状で最大長 79 mm、最大幅 45 mm、最大厚 4 mm をはかる。

53 本の歯が残存する。歯をつくりだす切り込みの多くは同様な長さに揃えられているが、片側部分はこれが短くなっているため、おそらくはこの付近に端部があつたものとみられる。

文字史料

当調査区からは木簡が 2 点検出されている。ともに紀年はなく年代は不明であるが、溝状遺構 S D 01 の最下層からの出土であるため概ね 8 世紀後半代から 10 世紀前半代までの古代の木簡と考えることができる。

2 点とも表裏 2 面に記載が窺えるものの、確実に文字を認識できるのはともに片面のみで、一方は断片的に墨痕が見受けられる程度である。また、計 8 点の墨書を土師器や須恵器の器面上において確認している。以下ではそれぞれの概要について記載する。

1 号木簡

上端折れ、下端削り、左右割れとみられる現状ながら全長 196 mm、幅 53 mm、厚さ 4 mm の規格を残存し、表裏両面に文字及び墨痕が確認できる。

表裏は定かではないが、図版 03 の右側に掲載した面には右側に 1 行の記載が確認でき、反対の面には左右 2 行にわたり墨痕がみられる。「七束四把」とあることから、稻の出納に関わる帳簿として使用された可能性がある。

なお、「廣上真里」を地名とみる場合、現在の高岡市街地東部から射水市にわたり所在する「広上」が注目され、下佐野遺跡の影響力がこの地にまで及んでいたことを検討する必要性にせまられる。

また内容的に、後述する 2 号木簡とは本来同一の木簡であった可能性がある。

- ・ 廣上真里米田七束四把
- ・ □ □
□□□□□□ □ (196) × (53) mm × 4 mm 081

2 号木簡

1 号木簡と同様に溝状遺構 S D 01 から検出された木簡であるが、上述のように両者は同一の木簡であった可能性もある。

内容が明らかではなく表裏も明確ではない。上端は二次的な削り、下端折れ、左右割れにより欠損しているとみられ、現状では全長 128 mm、幅 41 mm、厚さ 4 mm を残存するにとどまる。文字は両面とも 2 行にわたり記載がされているとみられるが、片面は埋没地点における環境のためか文字が判然としない。

この木簡の特徴として、合点の存在と「二束四把」などとあることが挙げられる。このことから賃祖や田祖等、稻の出納の帳簿として使用された可能性があり、ひいてはこの周辺にそうした施設が所在した可能性がひろがる。

下佐野遺跡については、隣接する東木津遺跡などをともに石塚遺跡群を形成し、古代においては官衙的な様相を呈していたことが明らかとなっている。概して 8 世紀中頃から 9 世紀前半代までは東木津遺跡がその中心的立場にあり、その後は下佐野遺跡の範囲にその機能が移動したことが遺物や遺構の消長関係により推定可能である。今回検出した木簡を賃祖ないし田租等、稻の出納に関わるものとみる場合は、周辺にそうした施設の存在した可能性が浮上する。

なお、下佐野遺跡を含む石塚遺跡群をめぐっては、布師郷に比定する意見のほか（堀沢 2001・根津 2009 他）、隣接する東木津遺跡をして一時的ながら郡の出先機関として機能したとする案、あるいはその南方に所在するとみられる榎田荘の三宅の代理施設として機能した候補地とする提起が既にある（根津 2007）。

〔東カ〕	〔万呂カ〕
・ □口八把	「枚□□ 二束四把 □
□□□ □□	□□四把
〔把カ〕	〔東カ〕
・ □	□□二

(128) × (41) × 4 mm 081

墨書土器

当調査区からは「西（遺物番号 277）」「曹司（同 275）」「正カ（同 276）」「続カ（同 273）」「曹司カ（同 274）」等の計 8 点の墨書が検出されている。いずれも 9 世紀から 10 世紀前半代の須恵器や土師器の器面に記載されているが、ここでは文字が判読でき、且つ周辺遺構との関連が検討されるものを記述していくこととする。

遺物番号 277 は、10 世紀前半代の土師器の椀の口縁部外面に「西」と記載されたものである。文字は土器とは天地逆、すなわち土器を伏せた状態で文字の天地が正位置となる。

遺物番号 275 は、9 世紀後半から 10 世紀前半代の土師器の椀の口縁部外面に「曹司」と記載されたものである。文字は土器を伏せた状態で正位置となる。上述の木簡や周辺における古代の官衙的な様相などを鑑みると、周辺には官衙的な施設が所在した可能性がある。

なお、下佐野遺跡としては富山県埋蔵文化財センターが平成 19～21 年度かけて発掘調査を実施した調査地からは「西大家」「曹司」両墨書土器も検出されており（富山県埋文セ 2011）、また西方にある石名瀬 A 遺跡からも「西」墨書が検出されている（高岡市教委 2012）。

土錘

当調査区からは計十数点の土錘も出土しており、本書ではこのうち実測可能な 5 点を掲載した。やや球状を呈するものと管状を呈するものとに二分される。

出土量が希少であるため詳細は不明であるが、前者については規格・重量などから形式分類することも将来的に可能かと思われる。

総括

下佐野遺跡は、既往において弥生後期の遺跡として認識されてきたが、近年における大規模開発にともなう発掘調査により古代の様相も注目されるようになった。

今回の調査区からは 8 世紀後半から 10 世紀前半までの古代の様相を確認した。調査区が狭小であったことも影響してか、建物跡なども検出されず、概して溝や畝状遺構など通常の遺跡にもみられるようなものが検出されるにとどまった。しかしながら、出土遺物については木簡をはじめ、墨書土器、人形、算木が検出され、また出土遺物における食膳具の比率の高さなど、これらのことから周辺に官衙的な施設の存在した可能性が検討される。

今回の大きな成果として 2 点の木簡と「曹司」墨書が挙げられよう。これらからは当該地において賃租や田租等の稻の出納に関わる公的機関が存在したことを窺わせる。

なお、ひろく石塚遺跡群を俯瞰し、且つその一角たる下佐野遺跡を概観するに、8 世紀後半から 9 世紀中頃（または 9 世紀後半期）までは隣接する東木津遺跡において官衙的な施設が存続し、同地を中心に官衙的な様相が展開したとみられる。

その後、この機能は隣接する下佐野遺跡の地に移動したようであるが、現状では典型的な官衙施設なども検出されておらず、今後の発掘調査の進展がのぞまれる。

参考文献

- 高岡市 『高岡市市制 100 年記念誌 たかおか—歴史との出会い—』 1991
- 高岡市教育委員会 「東木津遺跡（堀井地区）」『市内遺跡調査概報X』 2000
- 高岡市教育委員会 『石塚遺跡・東木津遺跡調査報告』 2001
- 高岡市教育委員会 『下佐野遺跡調査報告—平成 15 年度県道姫野能町線改良工事とともに発掘調査—』 2005
- 高岡市教育委員会 『石名瀬 A 遺跡調査概報』 2012
- 富山県埋蔵文化財センター 『富山県高岡市下佐野遺跡発掘調査報告書』 2011
- 根津明義 「東大寺模田荘の所在にかかる考古学的考察」『富山史壇』第 151 号 2007
- 根津明義 「古代越中における官衙的様相と在地社会」
木本秀樹編『環日本海歴史民俗学叢書 13 古代の越中』 高志書院 2009
- 堀沢祐一 「越中国の律令祭祀と官衙遺跡」
『フォーラム古代北陸の国と郡の成り立ち』第 2 回「富山の奈良時代を掘る」フォーラム資料 2001

第四図 下佐野遺跡（豊原地区）遺物実測図 須恵器蓋



101



102



103



104



105



106



107



108



109



110

縮尺 1 / 3

第五図 下佐野遺跡（豊原地区）遺物実測図 須恵器杯類



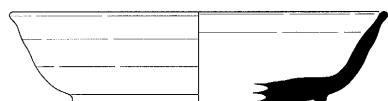
111



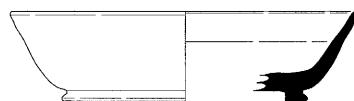
112



113



114



115



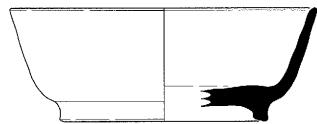
116



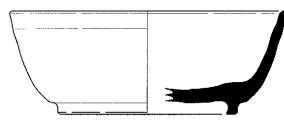
117



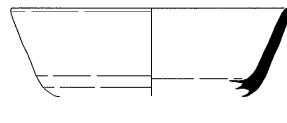
118



119



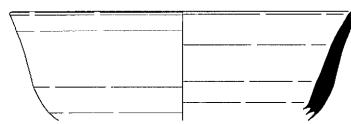
120



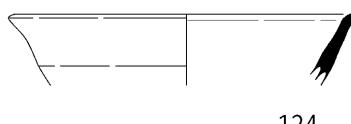
121



122



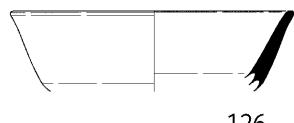
123



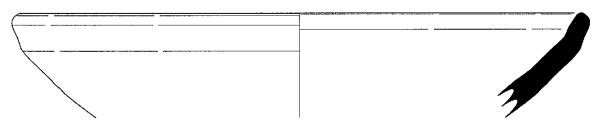
124



125



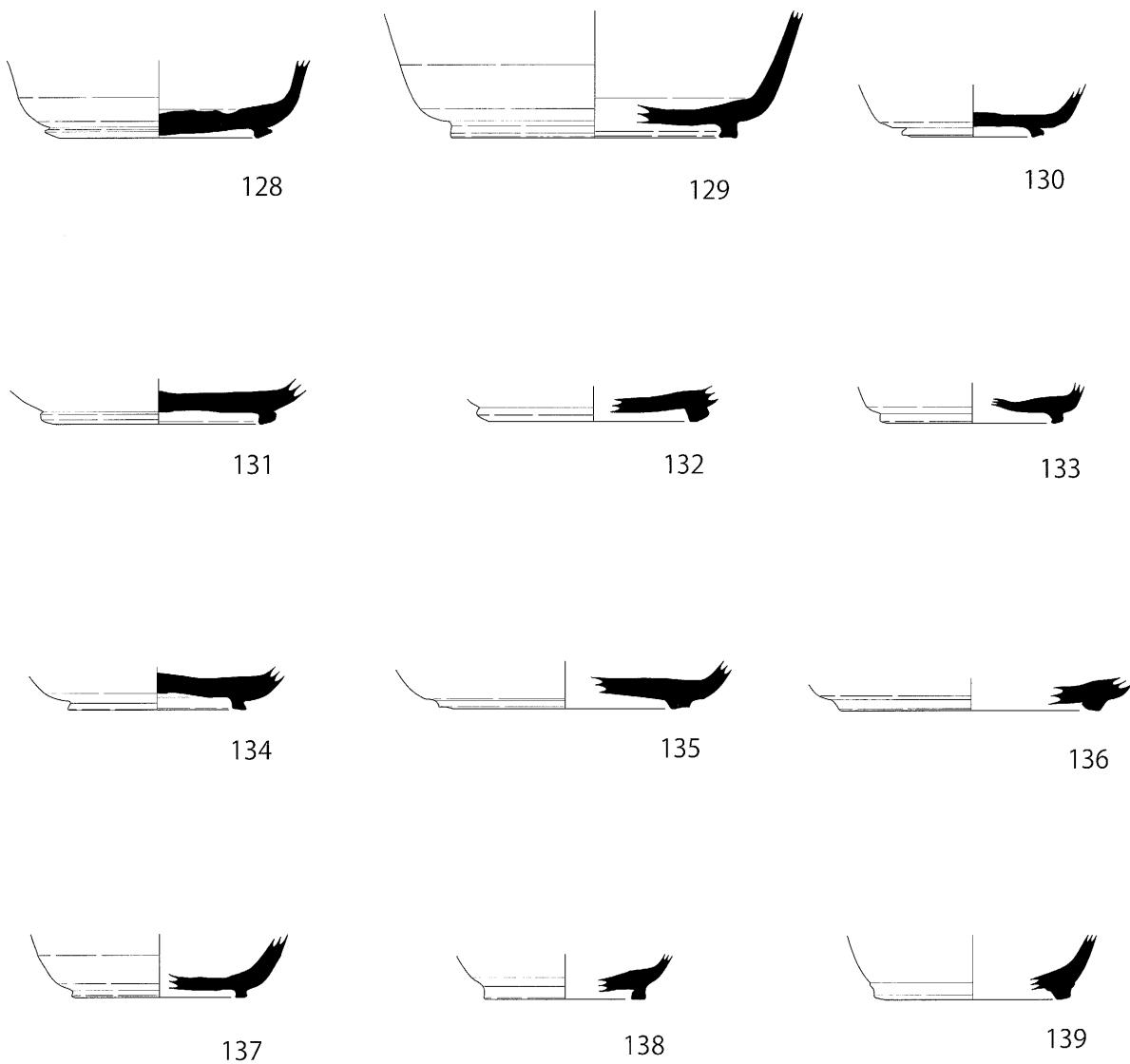
126



127

縮尺 1 / 3

第六図 下佐野遺跡（豊原地区）遺物実測図 須恵器杯類



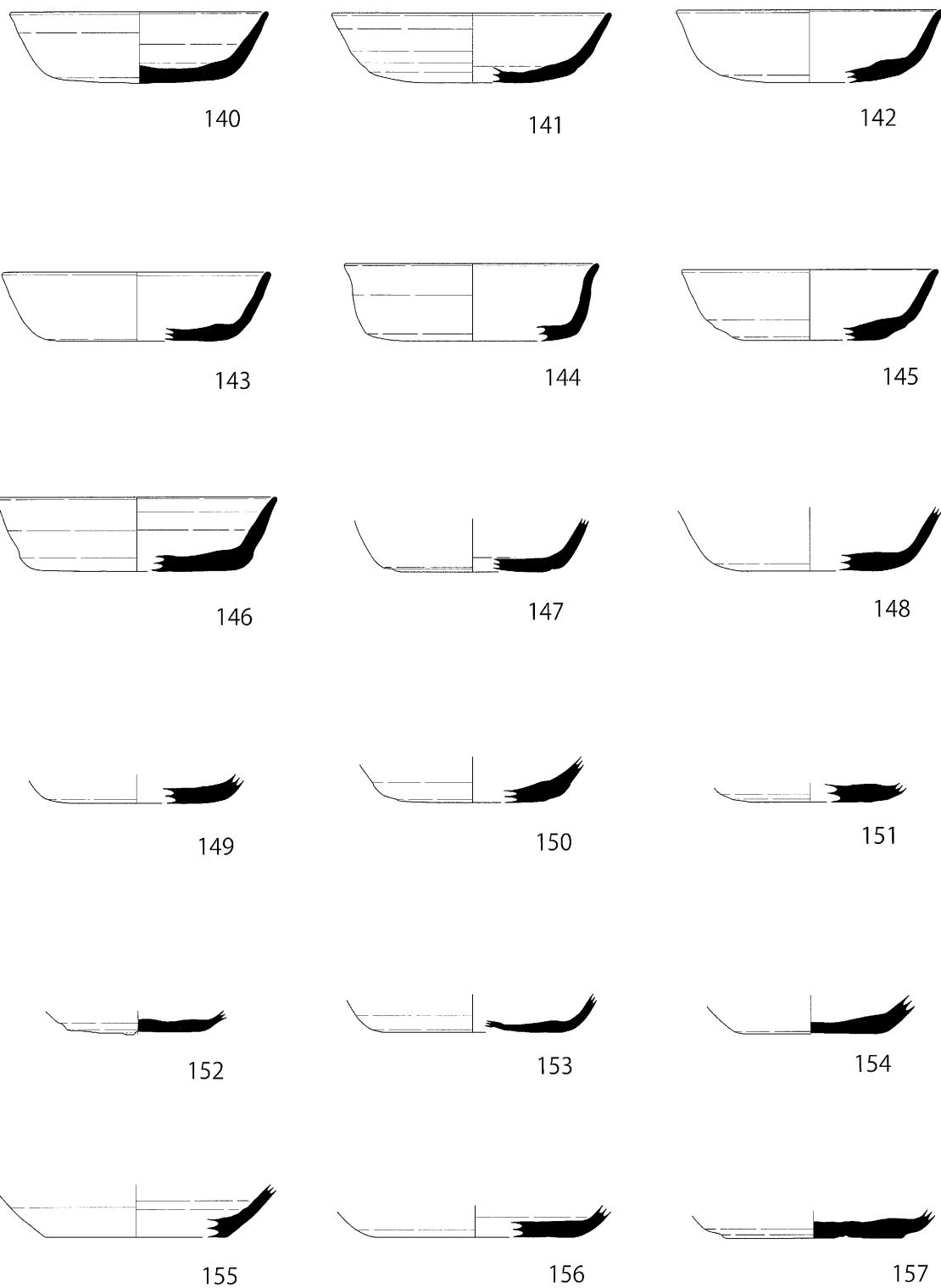
縮尺 1/3

第七図

下佐野遺跡（豊原地区）

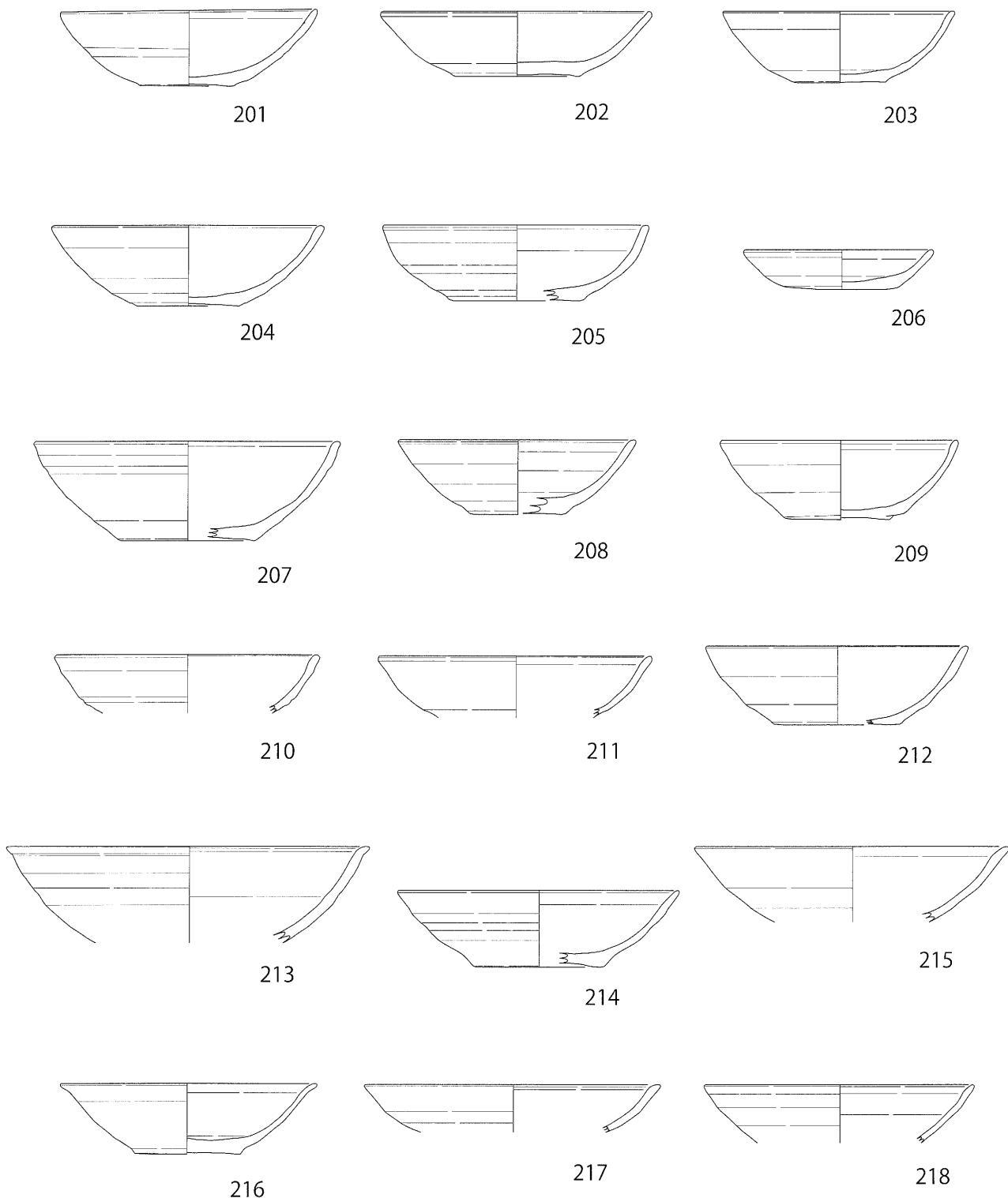
遺物実測図

須恵器杯類



縮尺 1 / 3

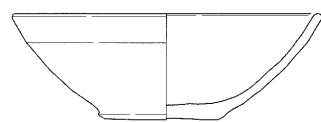
第八図 下佐野遺跡（豊原地区）遺物実測図 土師器杯・椀



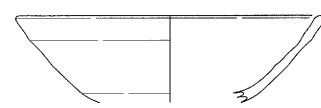
縮尺 1 / 3



219



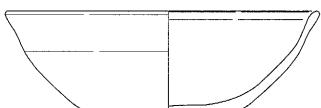
220



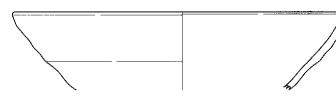
221



222



223



224



225



226



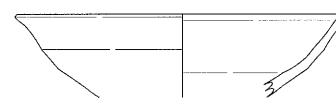
227



228



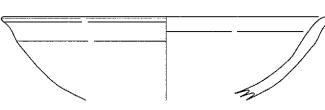
229



230



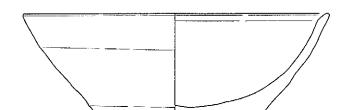
231



232



233



234



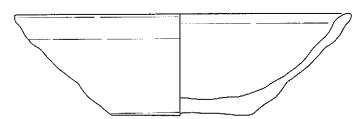
235



236

縮尺 1 / 3

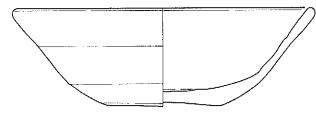
第十図 下佐野遺跡（豊原地区）遺物実測図
須恵器杯・椀



237



238



239



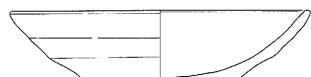
240



241



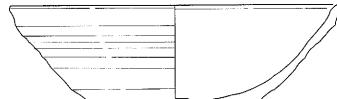
242



243



244



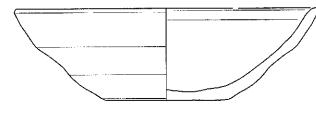
245



246



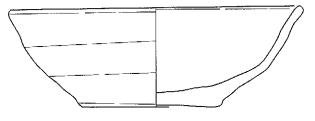
247



248



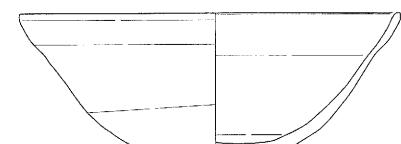
249



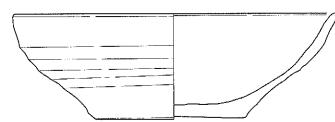
250



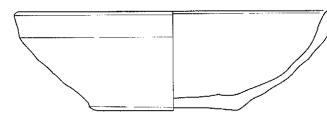
251



252



253

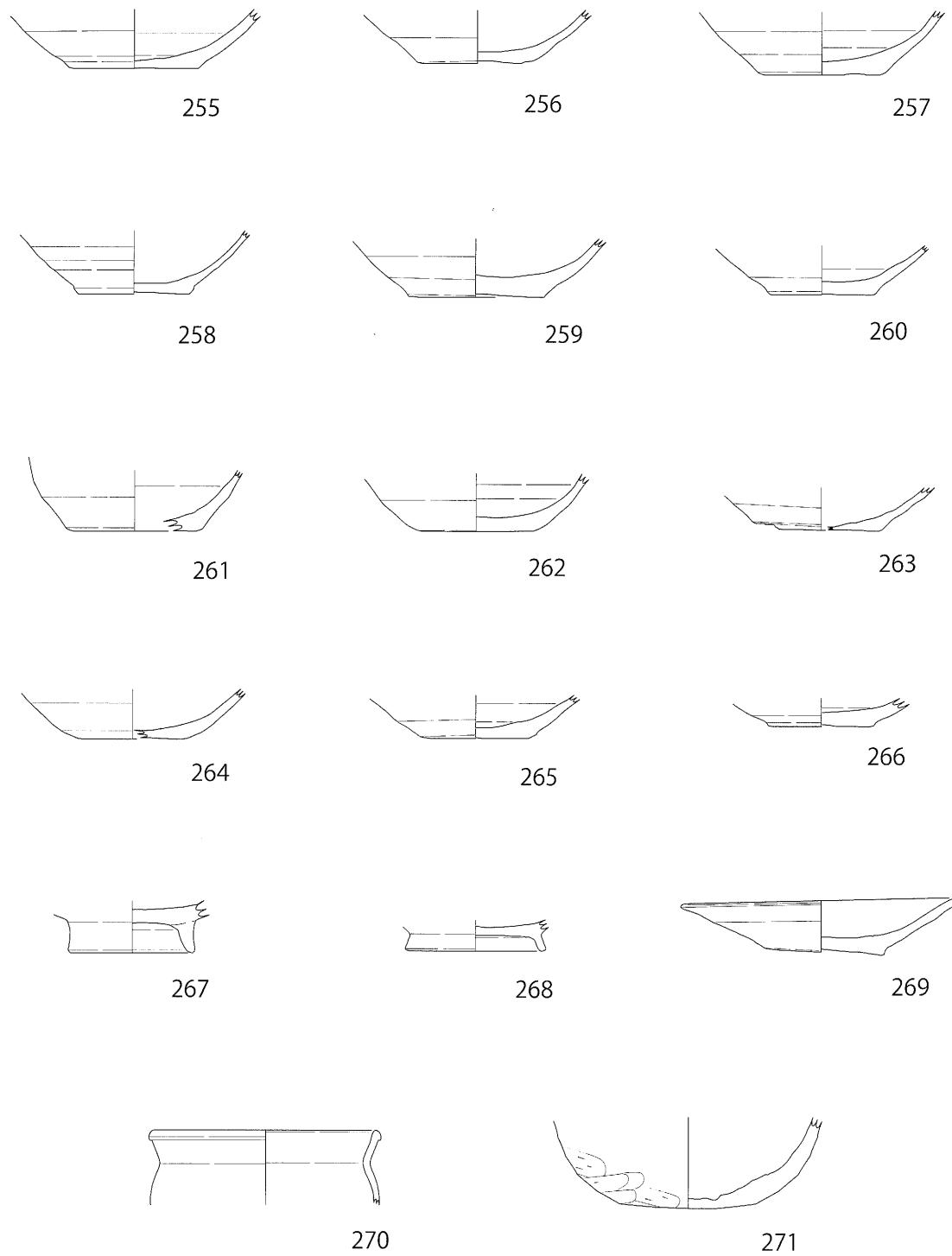


254

縮尺 1 / 3

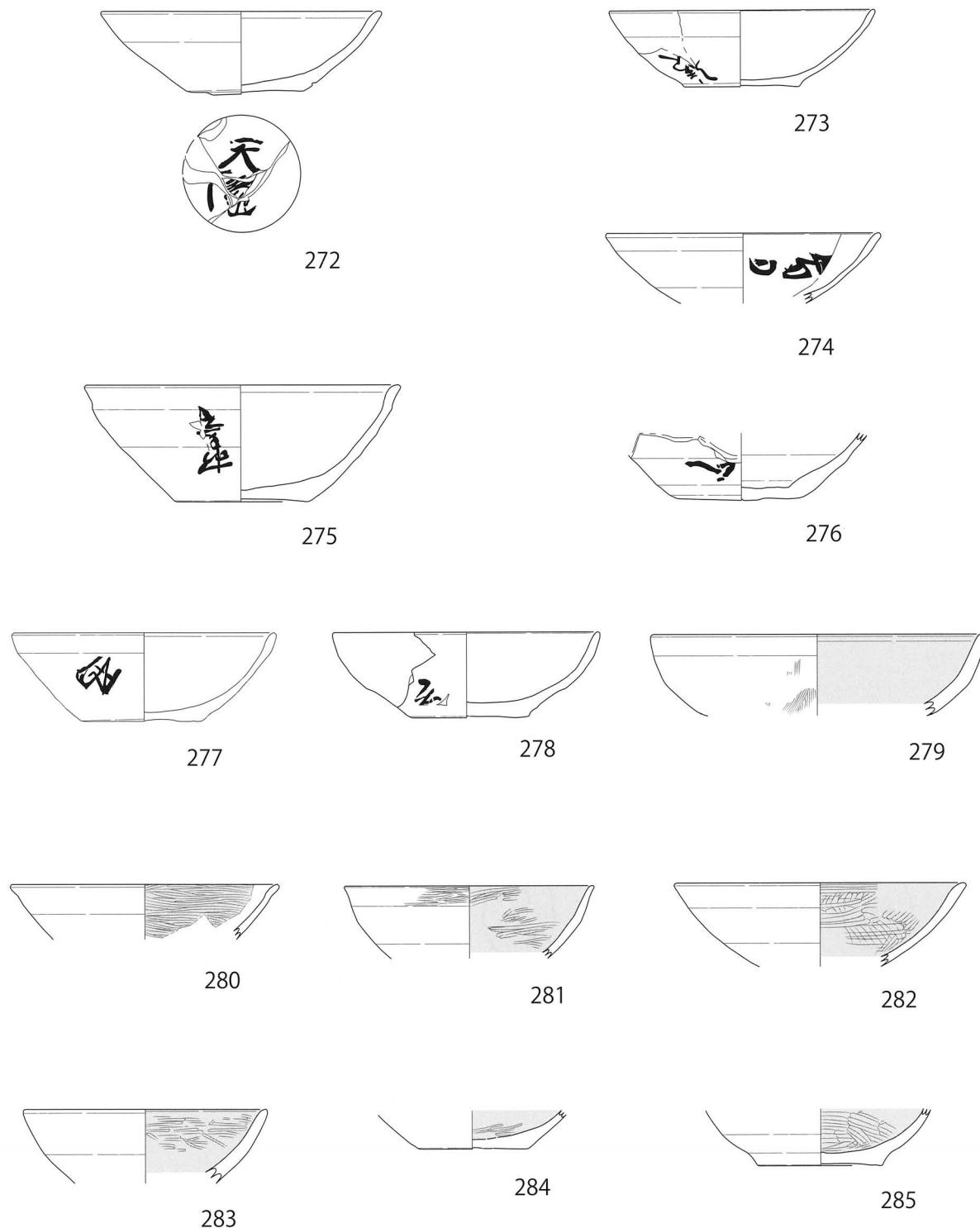
第十一図
下佐野遺跡
(豊原地区) 遺物実測図

土師器杯類・甕



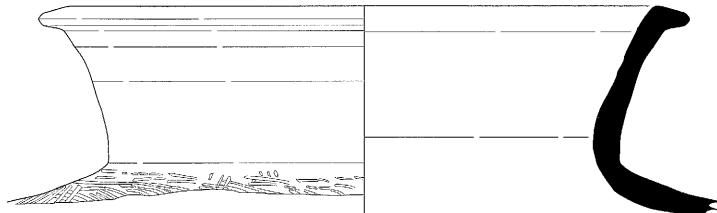
縮尺 1 / 3

第十二図 下佐野遺跡（豊原地区）遺物実測図
墨書き土器・内面黒色土器



縮尺 1 / 3

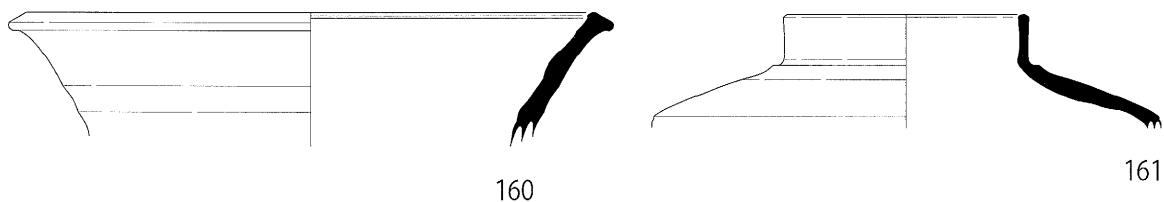
第十三図 下佐野遺跡
(豊原地区)
遺物実測図
須恵器大甕・壺・瓦塔・土錐



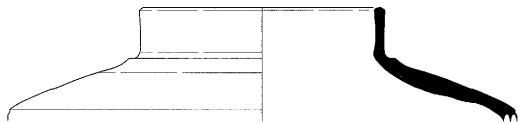
158



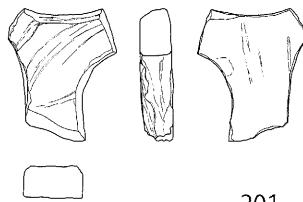
159



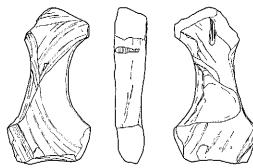
160



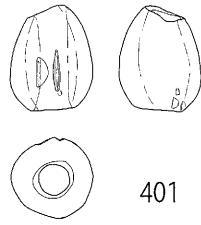
161



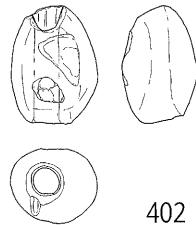
301



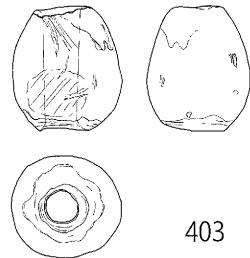
302



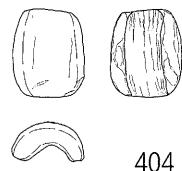
401



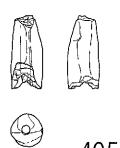
402



403



404



405

縮尺 1 / 3

第2章 越中国府関連遺跡（白山林道地区）

遺跡概觀

越中国府関連遺跡は高岡市北部の伏木台地上に所在する。同台地上に点在する「伏木古国府」や「伏木古府」など、関連が目される旧地名の存在などから越中国府や越中国分寺、その他律令期の諸施設がはやくから比定されてきた。

昭和 41 年（1966）には越中国分寺比定地において最初の発掘調査が実施され、律令期における古代瓦を多数出土した。また、同 60 年実施した「美野下遺跡」の調査では国府存続期と合致する官衙的な遺物を検出し、同 62 年（1985）の「勝興寺南接地区」においては回廊をともなう大型掘立柱建物群を検出した。そして現在でも個人住宅の建設等にともない、毎年のように数件の調査が実施され継続的に地下の状況が明らかとなっている。

現状においては国庁等諸施設の所在を特定するには至っていないが、上述した成果のほか、消費遺跡としての古代瓦の出土量が旧国内の他地域を圧倒することなどは、当該周辺に国府を比定する案の好材料となっている（根津 2012 他）。



第14図 越中国府閏連遺跡位置図 (S=1/20,000)

調査の概要

平成 22 年、高岡市農地林務課より「越中国一宮」の氣多神社境内地の北側をはしる白山林道の拡幅工事が計画され、高岡市教育委員会文化財課に埋蔵文化財包蔵地の照会がなされた。しかし、工事予定地は包蔵地に該当するため開発行為に先立ち試掘調査を実施するべく双方で協議がなされ、その結果、同年 6 月 30 日以降にこれを実施することで合意した。

今回の調査区は、「越中国一宮」気多神社境内地の段丘端部である。現地は樹木が林立し、切株も多数所在する状態であり調査区の選定に困難をきわめたが、調査対象面積 263 m²に対し 2 本のトレーニングを設け計 17 m²を調査した。

作業はまず重機で表土を掘削し、その後に作業員を動員して包含層の掘削をはじめ、遺構検出・遺構掘削・遺物取り上げといった一連の掘削関連の作業を行った。またこれと並行して各種写真撮影のほか、遺構概略図・遺構断面図・遺構平面図作成等の記録図化作業を実施した。

基本層序は 3 層に分層できる。最上層は厚さ約 15cm の I 層（表土層）であり、以下は厚さ約 18cm の II 層（褐色粘質土）、そして明茶褐色土の基盤層である。

検出遺構

本調査区からは、断崖の端部付近に設置した第 1 トレーニングから土坑 2 基と溝状遺構と仮定したもの 1 条を検出した。いずれも遺構覆土が基盤層と類似するが、本書では遺構となる可能性を有するものを掲載する。

なお、第 2 トレーニングからも遺構状の平面プランを確認したが、こちらは覆土表面から近代の遺物を確認したため遺構の扱いをしなかった。

土坑 SK01

第 1 トレーニング中央やや西側から検出された、長径 50 cm 程度の不正円形の土坑である。覆土は明茶褐色土層を呈し基盤層との識別は明瞭ではない。現地は樹木が林立し切り株も多数所在するが風倒痕の可能性も残る。

土坑 SK02

第 1 トレーニング西側で検出された長径 30 cm、短径 20 cm 程度の土坑である。覆土は明茶褐色土層を呈し、隣接する土坑 SK01 とほぼ同じであり、風倒痕の可能性も残る。

溝状遺構 SD01

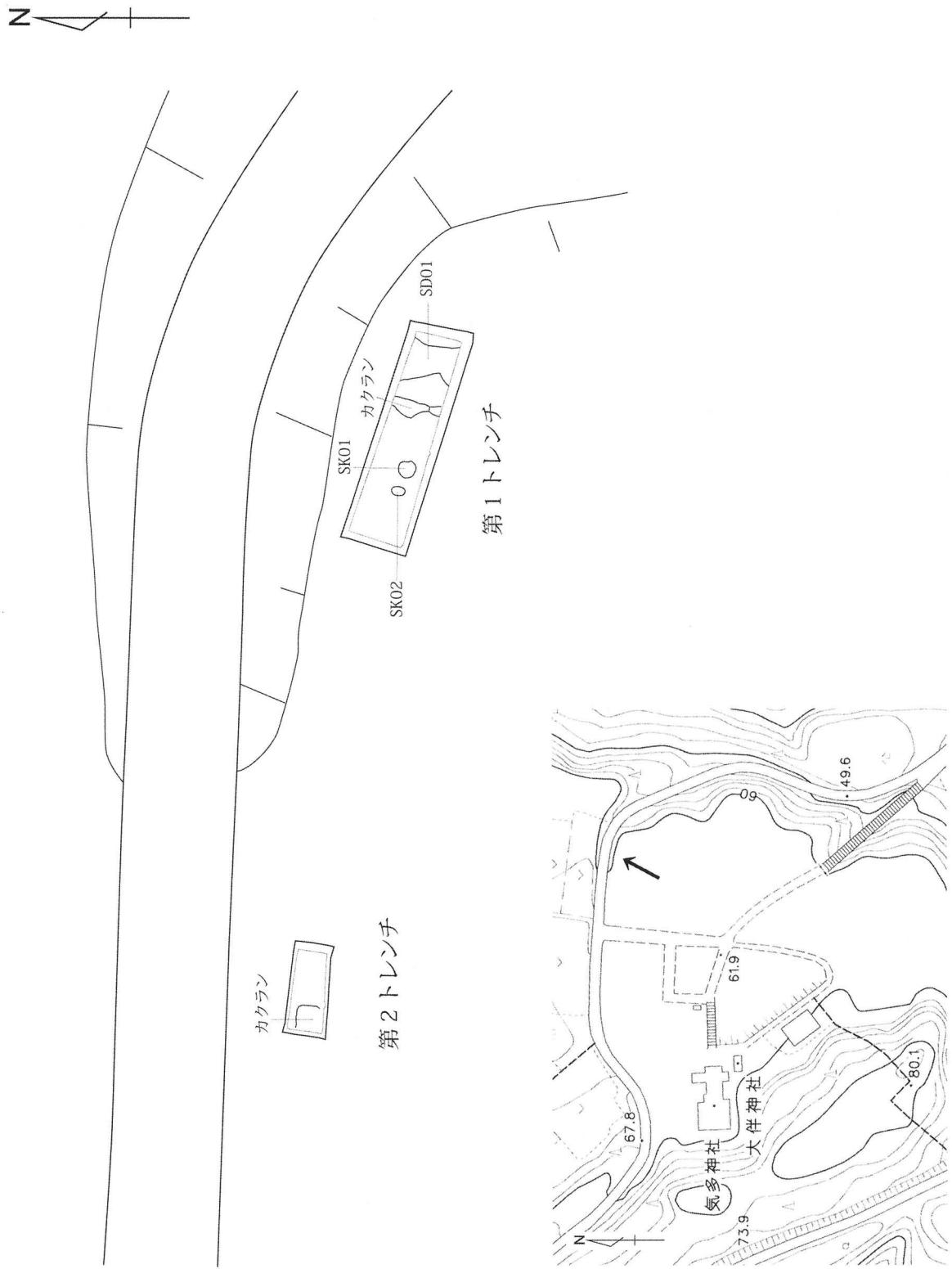
第 1 トレーニングの東端で検出された溝状遺構の可能性をもつ遺構である。確認長 1.4m、幅は屈曲を有しながら最大 1.3m を呈する。覆土は明茶褐色土層を呈し基盤層との相違はやや不明瞭である。

なお、本址が遺構であるかを確認するため北端部分にサブトレーニングを設定し掘削をしたところ、9 世紀前半代の土師器の鉢を検出した。また、これにより遺構の深さは 8 cm であることが確認された。

出土遺物

出土遺物は、基盤層を除く両トレーニングの各土層から得られている。年代的には 8 世紀後半代とおぼしきものも若干みられるが、9 世紀以降の古代と中世の遺物が散見される。

9 世紀以降の古代の遺物としては、須恵器の蓋と杯 B、短頸壺の口縁部が出土している。土師器については 10 世紀前半以降の杯類の底部と上述の鉢である。中世の遺物としては 13 世紀頃の杯や椀類の底部や高台部計 4 点である。



第15図 越中国府関連遺跡（白山林道拡幅地区）調査区全体図

総括

今回の調査区は「越中国一宮」の境内地の一部にあたるが、明確に構造物や諸施設に関連するような遺構は検出されず、また出土遺物も少量を得たにすぎない。

しかしながら、8世紀後半から9世紀代の古代の遺物を検出したことは、越中国一宮の創建を考える上で大きな成果となる可能性がある。

大伴家持が越中国守として当地に在任した当時、国司が定期巡礼するべき越中国一宮は羽咋郡（現・石川県羽咋市）の氣多大社であった。しかし、天平勝宝九年（757）に羽咋郡を含む能登国が分立したため、以降は新自国内に一宮を造営する必要があったとみられる。

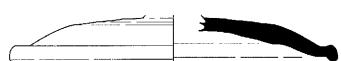
なお、高岡市の東木津遺跡からは、「氣多大神宮寺（※1）」とある延暦二年（781）銘の木簡が検出されており（根津2006）、この能登国分立後の「神宮寺」がいざれに該当するか論点となる可能性がある。

参考文献

- 川崎晃 「氣多大神宮寺木簡と難波津木簡について—高岡市東木津遺跡出土木簡補稿—」
『高岡市万葉歴史館紀要』十二 2002
- 高岡市 『高岡市市制100年記念誌 たかおか—歴史との出会い—』 1991
- 富山県教育委員会 『越中国分寺とその周辺の遺跡調査報告書』 1967
- 高岡市教育委員会 『美野下遺跡調査概報』 1986
- 高岡市教育委員会 『越中国府関連遺跡調査概報』 I 1987
- 高岡市教育委員会 『越中国府関連遺跡調査概報』 II 1988
- 高岡市教育委員会 『石塚遺跡・東木津遺跡調査報告』 2001
- 根津明義 「越中国射水郡における諸郷の所在について」『富山史壇』149 廣瀬誠先生追悼号 越中史壇会 2006
- 根津明義 「古代越中における官衙的様相と在地社会」
木本秀樹編『環日本海歴史民俗学叢書13 古代の越中』 高志書院 2009
- 宮田進一 「5.北陸」『概説 中世の土器・陶磁器』 1995

※1 神宮寺の名称をめぐっては、他に「氣多大神宮寺」と解する意見もある（川崎2002）。

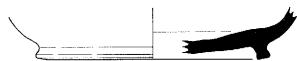
第十六図 越中国府関連遺跡（白山林道拡幅地区）出土遺物実測図



101



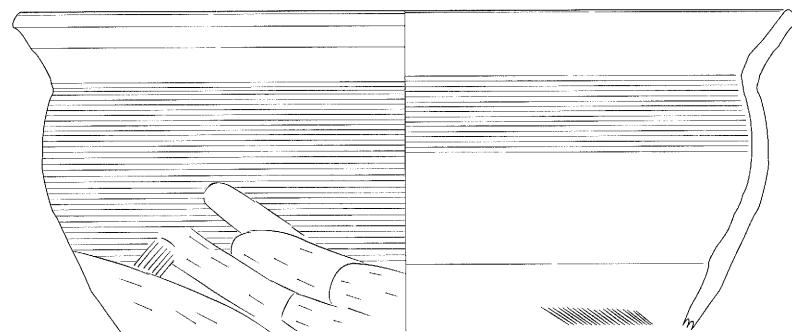
102



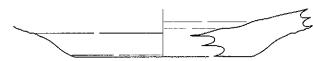
103



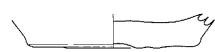
104



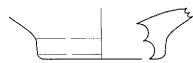
202



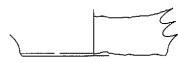
201



203



204



205



206

縮尺 1 / 3

第3章 その他の遺跡調査

No.	遺跡名	地区名	所在地	調査面積	種別	検出遺構	出土遺物	調査原因	備考
1	中保B遺跡	ロクショウ地区	高岡市 中保1375外	77 m ²	集落	なし	古代須恵器	宅地造成	
2	瑞穂町遺跡	木原地区	高岡市 瑞穂町148番12	12 m ²	散布地	なし		個人住宅建設	
3	越中国府関連遺跡	角納地区	高岡市 伏木古府元町230番2外	7 m ²	官衙	時期不明大型遺構か	古代須恵器	個人住宅建設	
4	井口本江遺跡	松井地区	高岡市 井口本江字江指廻77	50 m ²	散布地	なし		集合住宅建設	
5	越中国府関連遺跡	古枝地区	高岡市 古国府651外	8 m ²	官衙	時期不明土坑	なし	個人住宅建設	
6	石塚遺跡	戸出高岡線地区	高岡市 石塚地内	22 m ²	集落	時期不明溝状遺構	中世土師器	県道改築	本調査実施
7	蓮花寺遺跡	杉田地区	高岡市 蓮花寺451番2外	12 m ²	寺社	なし		個人住宅建設	
8	上二上遺跡	門井地区	高岡市 二上1016	25.2 m ²	散布地	なし	古墳土師器・古代須恵器・古代土師器・中世土師器・土鍬	個人住宅建設	
9	越中国府関連遺跡	高橋地区	高岡市 伏木東一宮1013番	10 m ²	官衙	なし		個人住宅建設	
10	東木津遺跡	津沢地区	高岡市 佐野497-2	123 m ²	集落	なし		古墳土師器 古代須恵器 中世珠洲	医院建設
11	越中国府関連遺跡	氣多神社地区	高岡市 夷木一宮1-10-1	3 m ²	官衙	なし			
12	江尻遺跡	圃場整備地区 2	高岡市 福岡町江尻340番1	61 m ²	散布地	なし		消火設備造営	
13	瑞龍寺遺跡	高岡地所地区	高岡市 上關町502-1外	28 m ²	寺社	なし		農地整備	
14	瑞龍寺遺跡	橋地区	高岡市 関本町486-6	7 m ²	寺社	なし	近世瓦	道路建設	
15	瑞龍寺遺跡	村田地区	高岡市 上關町55	4 m ²	寺社	なし		個人住宅建設	
16	麻生谷遺跡	橋地区	高岡市 石堤547番2外	5 m ²	集落	なし		個人住宅建設	
17	下黒田遺跡	新幹線周辺地区	高岡市 下黒田1524外	358 m ²	散布地	なし		再開発	
18	下黒田遺跡	畠地区	高岡市 下黒田485	19 m ²	散布地	なし		個人住宅建設	
19	東木津遺跡	市村地区	高岡市 佐野865番2	84 m ²	集落	時期不明溝状遺構 時期不明不明ビット	なし	医院建設	
20	井口本江遺跡	再開發地区	高岡市 野村地内	403 m ²	散布地	不明土坑 不明構状遺構	古墳土師器 古代須恵器 中世珠洲	土地再開発	

写 真 図 版

図版〇一 下佐野遺跡（豊原地区）



1 調査区全景（遺構確認時・南方より）



2 調査区全景（完掘時・南方より）

図版〇二 下佐野遺跡（豊原地区）



1 畝状遺構（北方より）



2 1号木簡検出状況

図版〇三 下佐野遺跡（豊原地区）



1号木簡 赤外線写真

図版〇四 下佐野遺跡（豊原地区）



2号木簡 赤外線写真

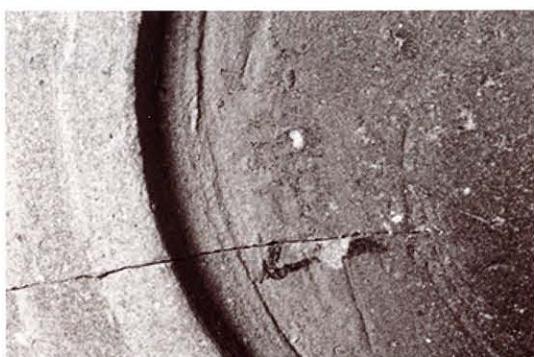
図版〇五 下佐野遺跡（豊原地区） 墨書



「西」 遺物番号278



「口曹カ」 遺物番号279



「口」(积文不明) 遺物番号117



「曹司カ」 遺物番号274



「口続カ」 遺物番号273



「曹司」 遺物番号275



「正カ」 遺物番号276



「天口」 遺物番号272

図版〇六 下佐野遺跡（豊原地区）



1 人形(赤外線写真)



2 横櫛



3 瓦塔(水煙)

図版〇七 越中国府関連遺跡（白山林道拡幅地区）



1 第1トレーニチ全景(東方より)



2 第1トレーニチ遺物出土状況（南方より）

報 告 書 抄 錄

ふりがな	しないいせきちようさがいほうにじゅういち							
書名	市内遺跡調査概報 XX I							
副署名	平成 22 年度、下佐野遺跡（豊原地区）の調査他							
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査概報							
シリーズ番号	第 72 冊							
編集機関	高岡市教育委員会							
所在地	〒933-8601 富山県富山市広小路 7 番 50 号 TEL 0766-20-1463							
調査担当者	根津明義 田上和彦 道振弘明							
編集者	根津明義 田上和彦 阿原智子 江口雅子 千田友子 宮野 美重子							
発行年月日	西暦 2012 年 3 月 16 日							
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
下佐野遺跡 豊原地区	富山県 高岡市 佐野	016202	202151	36° 43' 39"	136° 59' 30"	100512 ～ 100516	78 m ²	個人専用 住宅建設
越中国府関連遺跡 白山林道拡幅地区	富山県 高岡市 伏木一宮	016202	202013	36° 48' 00"	137° 02' 45"	100630 ～ 100630	17 m ²	道路拡幅
その他の遺跡 各調査地区	富山県 高岡市内	016202	—	—	—	100401 ～ 110331	1318.2 m ²	住宅建築等
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物				特記事項
下佐野遺跡 豊原地区	集落	古代	古代土坑 古代溝状 遺構 古代坎状遺構 古代河川跡	古代須恵器 古代土師器 古代内黒土 器 古代墨書き器 古代木簡 古代人 形 古代瓦塔 古代横櫛				稻の出納 に関わる 木簡を検出
越中国府関連遺跡 白山林道拡幅地区	官衙	古代 中世	時期不明土坑 古代 溝状遺構	古代須恵器 古代土師器 中世土師器				

高岡市埋蔵文化財調査概報第 72 冊 市内遺跡調査概報 XX I

—平成 22 年度 下佐野遺跡（豊原地区）の調査他—

2012(平成 24) 年 3 月 23 日 発行

編集・発行 高岡市教育委員会

〒933-8601 富山県高岡市広小路 7 番 50 号
TEL 0766-20-1463

印 刷 小間印刷株式会社

〒933-0927 富山県高岡市利屋町 3 番地
TEL 0766-21-0411

